



落成式

むかしの中二

題字・飯塚 修永



昭和26年の七里ヶ浜

はじめに

今年二中は、創立50年を迎えました。50年前の中学生はどんな生活を送っていたのだろうか、知りたくなりました。そこで、昭和24年入学、27年卒業の嶋田和夫さんと、今年のクラス会に参加された同級生20名の方々に、当時の思い出を語っていただきました。

時代背景

二中に入学したのは、戦争に負けた後わずか三年半しかたっていない昭和24年4月。みな貧しい時代でした。入学当時の写真を見ると、まるで難民の子どものようにしたね。進駐軍総司令部（GHQ）が日本を統治していて、米軍兵士（GI）が街の中を闊歩していました。二中在学中の朝鮮戦争（当時は動乱と呼んでいました）が始まり、特需で急速に景気が回復し、生活も豊かになってきました。しかし当時は電気洗濯機、電気釜、テレビ、冷蔵庫は、まだどの家にもありませんでした。そして、娯楽と言えば、映画が最大の娯楽であり、他にはラジオ、雑誌くらいしかなかったですね。その雑誌も貸本屋が全盛という時代でした。入学当時は、ラジオもNHKのみで民間放送はありませんでした。

初期の二中

昭和24年から36年までは「横浜国立大学学芸部代用附属鎌倉市立第二中学校」と呼ばれていました。それまで国大附属は学区を特に決めず、広く生徒を募集していましたが、24年4月からは縮小され、他地域からの募集のみならず、小学校からの進学の制限することになりました。そこで、国大の教育実習生の実習現場が足りなくなったことと、附属中に入れなかった生徒の受け皿として、鎌倉市立の二中を代用附属に指定し、教員を国大側から大勢送りこみ、陣容を整えたということでした。

二中は準附属になったので、学区外からも生徒を募集しました。そこで遠くは、横浜鶴見区、戸塚、藤沢、大船、横須賀、逗子からも通って来た生徒がいましたね。学校は今の二小の場所と同じで、二小に同居する形でした。

間借りみたいで肩身が狭かったのを覚えています。また、地元学区の生徒達は小学校との交流がありました。他学区からの生徒達にとっては、二小は縁が薄い存在だったのは仕方のないことでした。

「20の扉」「話の泉」「鐘のなる丘」などが、ラジオの人気番組でしたね。

当時の乗り物

国鉄の列車は真黒で、電車はこげ茶色一色。窓には棧の板が張ってあったようです。もちろん、二中の窓もガラスが足りなくて、板でふさいだままのところがありましたよ。電車の網棚も板張りでした。中二の時、東海道線にオレンジとグリーンに塗り分けられた電車が出現し、アメリカの雑誌でしか見たことのなかったカラフルな車輦には、感動したものです。

同じ年に横須賀線の電車もクリーム色とブルーのツートンカラーに塗り替えられ始めました。

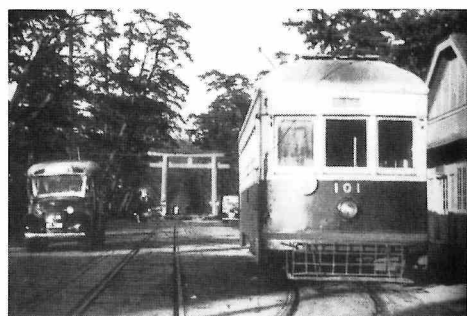
バスは、木炭車で、大勢乗客が乗ると鎌倉山の坂が登れませんでした。そこで客はバスを降りて、坂の上まで歩いたものです。江ノ電も同様に長谷のトンネルの坂で乗客を降ろし、客は線路際をぞろぞろと歩きました。停電は日常的でした。江ノ電の運行は30分間隔で、屋根にはトロリーポールが付いており、終点では車掌がロープをあやつってポールの上げ下げをしていました。

学校生活

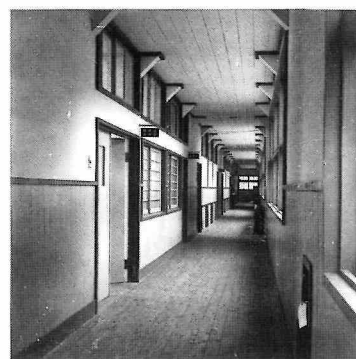
当時の二中は、一口に言えば、「自由」がありました。先生達は熱心で、PTA活動が活発に行われ、ユニークなところでは、体育正課で社交ダンスを習いました。

また、理科教育が進んでおり、反射天体望遠鏡を作ったこともあり、ガラスを磨いて銀メッキをしてできた凹面鏡を組み立てて作り、天体観測を行ったのです。国大生と一緒に三浦半島の地質巡検に出かけたこともあり、学芸会では英語劇の「白雪姫」をやりましたね。まだセリフを覚えていましたよ。英語には当時まだ二十才位の若い女の先生もいました。アチーブメントテストの第一回目も行われました。その時は国語と数学の二科目のみでした。

学校の暖房は石炭ストーブを使っていました。



戦前の二の鳥居前



新築当時の校舎

駅前界限

復員服や軍隊毛布で作ったオーバーを着て歩く人が多かったようです。若宮大路にはヤミ市露店がありました。そして日朝様（本覚寺）の前に、鎌倉市民座という野外映画館がありました。後に、カマボコ型の屋根がついてからは、二中の全校生徒がそこへ、アメリカ映画を見に行きました。

江ノ電は、横須賀線のガードの一番西側をくぐり、若宮大路に出て来て、島森書店の前が終点でした。

先生達の思い出

女子に人気の英語の先生は長身でダンディ、メガネが印象的でした。別のイギリス婦りのオシャレな英語の先生は、リンガフォンレコードの英会話を教えて下さいました。イギリスから持ち帰った珍しいワイヤー式の録音機には驚きましたね。

横浜国大教授から転身の校長先生は、穏やかな学者肌の人格者。誰も叱られた記憶がありません。

理科のW先生はアメリカのリンカーン大統領そっくりの風貌をしていて、当然ニックネームもリンカーン。生徒を一人の人間として接してくれました。この先生には、人間としての生き方のようなものを教わりました。二中の礎を創ったのは、この先生だと思っています。

音楽の先生は、ロマンチストで蝶ネクタイにチョッキ姿がとて目立ちました。

美術の先生は、中央でも有名な画家で大酒豪でした。駅前のロータリーに寝ていたりして、子ども心にスゴイ人だと思いましたね。熱血漢のやや長髪の社会の先生には社会主義を教わりました。体育の先生は、大学出たての国体選手でした。

故人になられた職業家庭科の先生には、竹細工の時間にアマランス染料で着色することを教わりました。



昭和20年の水泳授業



きまわしたり、木炭を追加したりしていました。現東急の所が車庫で、木っば置き場でした。そして車掌さんはもちろん若い女性でした。

車の向きを変える時は笛ではなく「オーライ、オーライ」と言っていて誘導していましたよ。

二中の生徒はバスで登校する際も大さわぎをしていました。ある時、我慢しかねた運転手が急にバスを止めて立ち上がり、後に歩いて来て、同級生の横面を思いきりひっぱたいたこともありました。

朝は大塔宮行きに乗り、荏柄天神前で降りましたが、帰りは本数が多いので杉本観音前から乗りました。

でも、鎌倉駅まで歩いて帰ることも多かったですね。これがとても楽しかったのです。岐れ道から裏に入って滑川沿いの道から帰ることもありました。こうもりやぐらまで足をのびしたこともありま

PTA活動

アメリカの政策とその影響で、PTA活動が盛んでした。生徒の父母や、その他様々な人の伝で、一流芸術家が来校し、子ども達に芸術的雰囲気味わわせてくれました。本物のオペラ歌手のかたやお話の先生がみえたり、狂言を鑑賞したりと、今考えてもすごい体験をしたなと思います。

校舎が間借りで木造りなのを親達は気の毒がって、独自の校舎作りを市に働きかけてくれました。そして、PTAが「新校舎建設促進委員会」を作り、熱心な活動を行い、遂に、昭和29年に現在の場所新校舎が完成したのです。しかしそれは自分の子ども達が卒業した二年後のことでした。

へおわりに

いかがでしたか。二中の自由な雰囲気は40年以上前から変わらな



昭和30年のPTA
ニュースみだし



鎌倉二中同窓会 平成8年11月11日 於 伊豆長岡温泉 ささや竹翠亭

お話し下さった方々

やる事、思っていることはあまり変わりが無いようです。でも、この後40年たった時の子ども達はどうでしょうか。PTA活動が、今も昔も盛んな事は二中の誇りです!! 親が子どもを思う気持ちもいつの時代も変わりませんね。

嶋田様はじめ、同級生の皆様、ご協力いただき、本当にありがとうございました。 (二中PTAだより99号「和聲」の記事を一部修正の上転載させていただきます。)

く食べました。

通学路上では、家の表札の掛け替えは始終やっていました。それで最後には、どこがどうだかわからなくなる始末でした。

若宮大路を通って駅に出る途中に東京トイイスという玩具店がありましたが、その前に来ると必ず「東京トイイス、何でも高いス」とはやし立てました。

学校では、掃除の時に床板をはがして、すき間にゴミを全部埋めたりしました。また、天井うらに入り込み、生徒委員会が開かれていた図書室の上に行つて、天井をたたいて議事を妨害する者までいましたね。

朝のホームルームで先生から、北鮮軍が38度線を越えて南へ侵入した、という重大事が起ったことを聞いた時も、あまり深くは考えなかったですね。その後、二人がけの机の真中にチョークで線を書いて、それを38度線に見立て、授業中でもヒジなど体の一部やノート等がその線を越えると、「38度線突破!」と叫んで反撃に出るゲームがはやったほどです。

ある先生に、「きみたちは野育ちだから」と言われたように、実のびのびと中学生生活を送れたことを、本当に感謝しています。